

会 議 録

1 会議名

第10回柿崎区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

①平成31年度柿崎区地域活動支援事業の採択方針・審査に当たり定める事項の見直し（案）について

②平成31年度柿崎区地域活動支援事業のスケジュールについて

③地域の皆さんと地域協議会委員との懇談会資料について

④地域活動支援事業（防災まちあるき防災マップ作製事業）の変更協議について

(2) 報告事項（公開）

①地域活動支援事業（古文書を紐解きながら、現在の用水について学び、明日の用水を考える事業）の変更承認について

②会長からの報告

・上下浜駅の利便性に関する協議の取扱いについて

③市からの報告

・事務事業評価の実施概要について

(3) その他（公開）

・第11回柿崎区地域協議会の開催について

3 開催日時

平成31年1月15日（火）午後6時から7時56分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 305～307会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：小出優子（会長）、金子正一（副会長）、薄波清美、太田健一、片桐充、加藤満、佐藤健、白井一夫、武田正教、新部直彦、榆井隆子、引間孝史、湯本清隆、吉井一寛
- ・事務局：柿崎区総合事務所 滝澤良文所長、佐藤誠司次長、風巻雅人総務・地域振興グループ長、山田幸江産業グループ長、柳澤一幸建設グループ長、島岡聡市民生活・福祉グループ長、平野真教育・文化グループ長、玉井智子産業観光班長、唐澤幸代地域振興班長、長井英紀主任（以下グループ長はG長と表記）
観光振興課 施設経営管理室 新部彰室長、小関政明主任

8 発言の内容（要旨）

【佐藤次長】

- ・会議（地域協議会）の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明

【小出会長】

- ・会長挨拶
- ・会議録署名委員に片桐充委員を指名

【小出会長】

内容に入る。

市からの報告として、観光振興課施設経営管理室新部室長、お願いする。

【新部室長】

上越市柿崎マリンホテルハマナス条例の一部改正について説明する。

説明に入る前にあらかじめご承知おきいただきたいと思うが、資料に示してある利用料金は条例上の上限額であり、実際に施設を利用し窓口で支払う料金は施設を管理運営する指定管理者が、この上限額の範囲以内で市長の承認を受けて決定することになっている。

したがって、ここに示してある利用料金がそのまま窓口で支払う利用料金になっていない。その点をあらかじめご理解いただきたい。

- ・以降、「資料No. 1」により説明

【小出会長】

ただ今の説明に関し、質問等ないか。

【委員】

- ・特に発言はなし

【小出会長】

特にないようなので、観光振興課の皆さんから退席していただく。

【小出会長】

協議事項に入る。

まず「平成31年度柿崎区地域活動支援事業の採択方針・審査に当たり定める事項の見直し（案）について」事務局より説明していただく。

【長井主任】

先月の地域協議会で、地域活動支援事業の目的・効果に照らし合わせて見直し協議していただいた結果に基づき、採択方針と審査に当たり定める事項の改正案を作成した。

- ・以降、「資料No. 2」「資料No. 3」により説明

【小出会長】

ただ今、事務局より説明していただいたが、先月の地域協議会で決めたことを

まとめていただいたものである。

平成31年度の柿崎区地域活動支援事業の採択方針・審査に当たり定める事項は、改正案のとおりでよろしいか。

【新部委員】

基本的には良いが、文字の表現で「共通審査事項の評点が」ではなく「共通審査事項の評点を」と、「が」ではなく「を」の方が良いのではないかと、もう1点、今回は事業の採択基準の第2の(2)「共通審査基準の各項目の評価が、それぞれ3点以上である事」という項目を削除したが、本当に削除してこういう縛りがなくて良いものなのか。こういう縛りがなくなると審査があまりにも甘くなり過ぎてしまう。例えばある項目で0点という評価が出たら、それでも良いのかとなってしまふ。それを考えるとやはりある程度の縛りとして、3点が厳しければ例えば2点とか、何らかの縛りがあつた方が良くと思うので、できればもう一度考え直していただければと思う。

【小出会長】

新部委員から文言の表現のことと、3点以上というある程度の縛りがあつた方が良くのではないかと、この2つの意見が出された。

最初に文言の「が」が良いのか「を」が良いのか、これについて意見を問う。

【片桐委員】

文言については新部委員の言うとおりに「を」で良いと思う。

また、(2)の「評価がそれぞれ3点以上であること」については、私も最初はこれを削除することに反対した方なので、2点としても残した方が良く思う。

【小出会長】

では、文言だが「共通審査基準の評点を15点以上とする」でよろしいか。

【委員】

・特に発言なし

【小出会長】

では皆さん賛成ということで、新部委員からの提案を採用したいと思う。

次に、共通審査基準の評価はある程度の縛りがあった方が良いのではないかと
いう意見が出されたがいかがか。

【吉井委員】

前回採択したものをもう一回蒸返すのはいかなものかと思う。そんなことを
していたら決まらない。だから、今回は決まったことで行い、それで0点とかの
問題が出るがあったとしたら、その時点でもう一度見直すことで良いと思う。

【小出会長】

一度決めたことを蒸返すと中々決まらないという吉井委員からの意見があっ
たが、ほかの方はどうか。

【佐藤委員】

今回は、これでやってみましょう。それで不都合が出たら吉井委員の言われた
ような格好でやれば良いのであって、一応決まったことなので今回はこれでいき
ませんか。

【薄波委員】

私も佐藤委員が言われたように、先回結構な時間をかけて決めたことをもう一
度蒸返しても仕方がないと思うので、先回決めたことを次回やってみてから考え
た方が良くと思う。

【小出会長】

新部委員もいろいろと考えられてのことだと思うが、一度決めたことなので来
年度1年間はこれでやってみようという意見がお二人から出ている。

では、挙手により決めたいと思う。

今回はこれで行くという意見に賛成の方、挙手を願いたい。

【委員】

- ・賛成多数を確認

【小出会長】

賛成多数により、前回決めた内容で行うことにさせていただく。

しかし、一度決めたことではあるが、いろいろと精査して、また次年度につなげていきたいと思う。

次の協議事項に移る。

「平成31年度地域活動支援事業のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

【長井主任】

- ・「資料No.4」により説明

【小出会長】

今の説明に関し、何か意見はないか。

【委員】

- ・特に意見なし

【小出会長】

意見がないようなので、スケジュールはこのように進めさせていただく。

次に、協議事項③の「地域の皆さんと地域協議会委員との懇談会資料について」に入る。

懇談会は3月の10日、17日、24日に決定している。懇談会では地域協議会が2つの課題を自主的審議事項として、委員会を設置し協議してきたことをお伝えし、地域の皆さんと意見交換したいと考えている。

「地域の交通について考える」「地域の保育園について考える」それぞれの委員会の活動内容を各委員長より説明していただき、皆さんより意見をいただいた後、その結果を2月15日発行の地域協議会だより臨時号で全戸配布する予定で

ある。

それでは、まず「資料N o . 5」地域の交通について、委員長の吉井委員より説明をお願いします。

【吉井委員】

資料N o . 5については、先月もこの資料内容で説明させていただいているので、皆さんには良くご覧いただいていると思う。特に前回と変わっているところはなく、スクール混乗バス、デマンドバス、乗合タクシー、自家用有償旅客運送、タクシー券補助、これら5つの公共交通のあり方を懇談会で皆さんに説明し、理解していただこうと思っている。

【小出会長】

続いて「資料N o . 6」地域の保育園について、委員長の薄波委員から説明をお願いします。

【薄波委員】

地域の保育園について考える会は地域の交通を考える会より半年遅れて設立され、追いつくために駆け足で進め、このような資料にまとめてみた。

- ・以降、「資料N o . 6」により説明

【小出会長】

ただ今の説明について、何か意見はあるか。

【佐藤委員】

まとめていただいたのは良いが、果たしてこれが地域協議会で取り上げる問題なのかどうか。やはり地元皆さんの意見も十分に聞かなければならないわけで、これを懇談会で提示してしまうと、全てのものが統合なのだと思われ、逆にならざるを得ない要素も出てくる。その辺どう考えておられるか教えてほしい。

【薄波委員】

今回の地域懇談会は、昨年の地域懇談会で地域の皆さんからいただいた意見の中で、交通の不便さと保育園問題の2つを取り上げ、地域協議会で協議したことをまた地域に持ち帰り相談する、協議する、懇談するということが目的だ。これは地域から上がってきた問題で、昨年から続いていることと捉えているので、地域にお返しして相談するのは昨年からの流れと考えている。

【佐藤委員】

地域からこういう意見が本当に挙がってきているのか。これはただ保育園を考える会の中での意見だけであって、これを懇談会に持って行けば「我々の保育園は統合される」と捉えられてしまう。そうではなく、地域から不便だという意見が強烈に上がってきているのであれば良いが、今のところそんなに上がってきていないし、地域で考えてもこのままでも良いとも思われる。そこをもう少し真剣に考えてもらわないと、これを懇談会で提示してしまうとうまくないのではないか。私はこれには反対だ。

【吉井委員】

私も保育園を考える会の委員の一人だ。今、佐藤委員から懇談会でこれを示すのは止めた方が良くはないかという話が出ているが、地域協議会として保育園を考える会の委員会を設置する時点で、皆さんで委員会を立ち上げて検討して行きましょうと確認しあったはずだ。それで委員会として、いろいろ検討してきた結果、柿崎区の中で保育園を考えていくと5つのパターンが考えられるということは良いのではないかと思う。もっと沢山あるかもしれないが、これら5つの案を住民の方々に今回の懇談会で示して、これ以上の案があれば出してもらおう。我々が考えた内容では長所、短所といろいろあるが、これを住民の方々に示し、いろいろな意見が出てきて、それをまとめて更に委員会として検討を続けていく。そういうことで、今回の懇談会でこれを示すことは全然問題ない。むしろ住民の方々が保育園をどうしていくかを考えるに当たって、一石を投じる意味で非常に効果があるのではないかと委員会としてまとめたわけで、薄波委員長が一人でこれ考えたわけではない。委員会として考えてきたことだ。

【佐藤委員】

みんなの保育園を考える会の中で、いろいろと案が出たのだと思うが、せめてその委員会の中に保育園の保護者の皆さんを巻き込んでやっていただいたら一番良かったと思う。その後で各町内会における役員もいるので、そういう皆さんとの意見交換も必要になってくると思う。みんなの保育園を考える会の中でこのようにやっていただいたことは良いと思うが、この案について私は納得いかないので再検討していただきたいと思っている。

【白井委員】

この内容は、あくまでも皆さんに対する情報として提供するものであって、これを押し付けるとかという意味ではない。皆さんから考えていただくための資料として、こういうものも考えられるのですがどうでしょうか、ほかに良い策がありますか、という叩き台でしかないので、その心配はないと思う。

【金子副会長】

地域の交通を考える会は1年前からできて、いろいろと試乗したり、会議を重ねたりしてきているが、みんなの保育園を考える会は先ほど、薄波委員長が言われたように立ち上げてまだ半年くらいである。

今は地域の少子化がすごいスピードで進んでいる。今は勉強会を立ち上げて協議している段階で、まだこれが方向性としてこうだというものではない。

また、資料の下にコメ印で各保育園の建設年度が書かれているが、木造の耐用年数は25年なので、皆ほぼその時期にきているわけだ。

そのようなことから、この資料の中でもう少しこんな項目も必要なんじゃないかというものがあれば意見で出していただき、もう少し住民の皆さんに分かりやすく伝えて皆さんの意見を聞くという、あくまでもその段階だと思う。

【佐藤委員】

各地区にある保育園というのは地域の活性化のためにあるわけなので、いくらなんでも耐用年数が24年だ34年だといってもそういう問題ではないと思う。何のために保育園があるかという問題だ。あれば便利であって、わざわざ統合す

る必要までないのではないかという意見も結構出ると思う。ただ老朽化しているからという問題ではないと思う。もう少し地域の意見を重要視してもらわないと困る。

【薄波委員】

佐藤委員からいろいろと意見をいただき本当にそのとおりであり、委員会でも幾度となく話し合ってきて、安易に統合にならないければ良いと願っている。それにしても地域の方の声がないと、地域協議会で考えたことだけで市が取り上げてくれるわけでもないで、今回は地域の方々の率直な意見を聞くための叩き台とするもので、ほかにも案があればそれを取り入れて、考えていきたいと思う。

【楡井委員】

この資料を見て、あくまでも統合がどのと言っている訳ではないと思う。一番上に「それぞれの保育園を建て替える」と載っているし、内容的に私が見ても可能性として考えられることがとても合理的に載っていると思う。あくまでも住民の皆さんがどのようにお考えなのかということを知りたいための懇談会なので、統合が前提ではないということが分かると思う。

【佐藤委員】

統合がうんぬんという問題ではないことは分かるが、せめて地域の皆さんの意見をもう少し聞くような委員会で立ち上がってもらえば良かったのではないか。ただ、みんなの保育園を考える会だけでやるべきものではなく、こういう重要な事項であれば地域の皆さんの意見はどうなのか、地域の皆さんを巻き込んでやっていただければ良かったと思う。

【武田委員】

この5つの方策を出してある中で、その内の3つが統合という文言が入っている。知らない人が見たときに、まずは最低限でも柿崎第一・第二は統合なのだという先入観を与えてしまう。これからどうしていこうかという時点であれば、4番と5番の具体的な方策は入れなくても良いような気がした。全部建て替えると

いう方策が1つあり、小学校へ移すという方法もあり、全部の保育園を改修する方策もある。最後に市から言うてくるのは統合というのもあるが、この選択枠にしておいて、具体的なことは入れない方が変に勘ぐられなくて良い気がする。

【小出会長】

今、武田委員から、統合という言葉が多いとやはり統合ありきなのかと誤解を招くかもしれないという意見が出された。ただ、この案はあくまでも統合ありきではなく、皆さんに考えていただくための叩き台との思いで担当されている委員はまとめてくれたと思う。その辺の表現の仕方とか、皆さんの声を聞くという姿勢でのまとめ方でもう少し工夫も必要かとも思う。

武田委員の意見を聞いて、統合という字が躍っているような印象になるのかと改めて思った。

【太田委員】

私も佐藤委員の意見が良いと感じる。特に地域協議会のあり方、地域協議会というのは行政・市の諮問機関であり、そういうつもりでここにいる。

武田委員の言われたように、あたかもこうであるというような印象を与え兼ねないと思われる。

もう1つ、地域の交通を考える会の関係で、ご承知のように柿崎区には公共交通懇話会があり、その中でいろいろと議論をしてきている。この中に入っていないのは路線バスのある地域は良いが無い地域はどうなるのかといったこととか、また市の助成、県・国の助成金がどうなっているのかが具体的に出ていない。そういうことを公共交通懇話会で協議をしながら、この資料にある長所・短所を踏まえながら地域へ出向く懇談会で協議させていただければと思う。

あまり地域協議会はこうだということでは、地域住民には理解いただけないのではないかと思っている。

私は、地域協議会はもっと厳粛で欠席がないということで選任を受けているが、非常に欠席が多い。地域協議会は年間で日程が決まっている。皆様方は手を挙げて地域協議会委員となられたわけなので、優先順位として、まず地域協議会が一番だということで、欠席をしないようにすることが大事だと思う。2年が過ぎ、

欠席の無い方もおられるが、欠席をしないで協議をしていただければと思う。

少し違った話をして申し訳ないが以上である。

【佐藤委員】

いつまでたってもけりがつかないので、私から提案させていただくが、懇談会に提示する保育園整備の方策案は、少し保留にしてはどうかと考えるので、こちらで採決していただければと思うが、いかがか。

【吉井委員】

懇談会は年に1回しかない。我々の任期は4年で、もう一度懇談会があるとするれば懇談会の後は任期切れとなってしまう。我々はこの交通の件と保育園の件を2年半にわたって検討してきた。一応、地域協議会だよりでお知らせはしているが、我々がやってきた内容を伝えきれていないと思う。今回5か所の地域へ出向いて委員会がやってきた内容を説明するというのは非常に有意義なことだと思う。佐藤委員はこれを出さない方が良いのではないかという意見なのだが、もし今回出さなかったら今まで我々が保育園を検討してきた内容をどういう形で地域の方々に示すのか。委員会として特に保育園の関係はこの次に打つ手がないのではないかと思うが、その点を皆さん十分考えていただきたいと思う。

【小出会長】

保育園の委員会を立ち上げたときには、いつまでも触れてはいけない問題ではなく、踏み込んでいこうということであったと思う。それで関市にも視察に行つて、委員会で協議してまとめていただき、地域へ出向いて懇談会で声を聞こうじゃないかという方向に今は動いているところであるが。

【湯本委員】

佐藤委員からの意見もそのとおりだと思うが、何かを一つでも提案なりしていかないと多分進んでいかないと思う。先ほど、統合する文言などが入っている等の意見もあったが、私はこれで良いのではないかと思う。これを地域の皆さんに投げかけたときに、今度は地域の皆さんから統合なんてとんでもない話だという

ような言葉が出てくるかも。これからの委員会のためにもこれは地域の皆さんに投げかけて見てもらう、読んでもらう、そして考えてもらうことが良いのではないかと思う。

【榆井委員】

私も懇談会がスタートと考えて、そのための資料をこちらが提供したという考え方で良いと思う。

【新部委員】

これを懇談会に出すと懇談会に来られた市民の皆さんは、これは地域協議会として提出したと取る。そのときに統合を地域協議会がリードしている感じに取られるようなとんでもない誤解をされてしまうので、非常に提案の仕方が難しいと思う。市民の皆さんに誤解されないように、地域協議会がこれを押し付けるのではなく叩き台としてこんなことが考えられる、その程度で止めて市民のそして地域の皆さんの声を吸い上げていく。それが市長に挙げる意見書にまとめられるかどうかは分からないが、そんな形で慎重に向かっていただかないと、誤解されては何も意味がない。委員さんたちも勉強されてここまでまとめていただき、表現・文言を変えた方がよい等あるが、これを読んで市民に誤解されない資料としていただければ良いと思う。

ただ、私も協議会委員になってまだ一期目で、市民の皆さんからこの件は何も要望を聞いてなく、私は最初からこの取り組みは賛成し難いという思いである。

【太田委員】

私も今の新部委員の意見に賛成だ。特に保育園・幼稚園についてはやはり極端すぎて、懇談会でということであればもう少し柔らかく、そして地域住民に誤解されないように、武田委員の言われたようにこれありきでは問題が出てくると思う。

新部委員、佐藤委員の意見に賛成だ。

【引間委員】

誤解されると皆さん言われるが、この方策案は委員会で何回か討論しながらやってきた。地元の住民を巻き込んでという意見も委員会でもあったので理解できるが、例えばそれにはどのような方法があるのか、それと時間的な問題もあり、とりあえずみんなの保育園を考える会の意見として5つの方策をまとめたに過ぎない。統合という言葉も出てくるがそれは1つの意見としていかがでしょうかと提案するだけであり、私はこれを提案すべきであると思う。

【加藤委員】

私も委員の一人なのだが、この提案は推し進めていただきたいと考える。ただ先ほどから出ているように文言だとか順番を加味して入れ替え、内容的にももう少し柔らかくして出した方が良いのかと、皆さんの意見を聞いて思っている。

【片桐委員】

私も保育園を考える会の一人だ。いろいろ考えた中で、地域へ出向いて話を聞くという意見も委員会の中であった。でもそれをしている時間がなく、短期間の中でまとめる必要があり、やはりこういう形で地域へ出て懇談会で皆さんの意見を聞いた方が手っ取り早い気がする。最初から統合ありきのことを我々は考えているわけではないので、これを1つの案として示し、皆さんどう思いますかと聞くのが懇談会だと思う。最初から今回の懇談会はテーマを決めて皆さんから考えていただくということだったと思う。だからこの公共交通と保育園の2つを提示してもなんら差し支えはないと思う。

【小出会長】

一応に皆さんから意見を伺ったが、どのようにしたら良いか。

これを担当してくれた委員さんたちがいるが、今、皆さんが危惧されている所とか表現方法とか、いろいろな意見が出た中で、これを並べ替えたり表現の仕方をもう少し考えたりしていただくことは可能か。

【薄波委員】

並べ替えは可能と思う。ただ、統合という表現をオブラートに包むと自分勝手に良い風に解釈してしまって、本意が伝わらないことが怖い。統合がいやだという意見を拾うためにも、統合という言葉避けては提案できないように思う。方策案の5つは多いかもしれないが、1つ増え2つ増えで5つになってしまった。それで分かり難いところもあつたりするが、提案は多い方が良いのではないか。少ない中で考えるより、あれもあるこれもあると出し、それでどうしますかとした方が選択しやすいと思う。ただ資料は文字の大きさ等を調整し、上に「今回こういう意図があつてこれを出させていただいた」という説明書きは可能と思う。

【小出会長】

皆さんから意見いただいたところによると、これを叩き台とし懇談会の資料として出した方が良いとの意見があつた。ただこのまま載せるか、どのような表現とするのかは皆さんの意見を参考にし、これから地域協議会だよりの原稿作りに入るがそのときに懇談会実行委員と編集委員で協議してまとめる形でどうか。

【薄波委員】

良いと思う。

【小出会長】

皆さんからいろいろ意見が出て、これを提示するかしないかの前段があつたが、概ね提示した方が良いだろうとの方向性が見えていると思う。

【新部委員】

これを作られた委員の方達は、ぜひこれを出して懇談会に使ってほしいという気持ちは100でしょう。汗かいてこんなに素晴らしいものを作られて。ただ地域協議会としてこれを出すわけなので、地域協議会は統合に向かっているのだと取られてしまうと非常に困る。私らは何も統合になど向かつてはいない。その辺の扱いを市民の皆さんに誤解されないように、提案のときに慎重にやっていただきたいと私は先ほど申し上げた。文言の中にはこれはちょっとという部分もある

が、委員の皆さんがせっかく作られたのでそのまま使ってもらって良い。ただ慎重に懇談会に臨んでいただきたいと思う。

【佐藤委員】

なぜ、地域協議会で保育園だとかうんぬんを議題として取り上げなければならぬのかという問題が出てくる。というのは、地域の中からそのような意見が盛り上がって、統合でも良いし新築でも改築でも良いから何とかしていただきたいと意見が地域協議会に出てきて初めて検討すべきだと思う。それを頭から地域協議会でこういう形で行うことはいかがなものかと思う。

だから、検討会で地域の皆さんも交えた中での意見を出してもらいたかったのが私の意見である。

【太田委員】

全く佐藤委員と意見は一緒です。町内会長あるいは地域からこういう話が出た時点で初めて協議することであって、かつては町内会長と行政とで一緒にやってきた。地域協議会は行政の中の意見を述べる1つの機関であって途中から入ってきた。ここまでやることは地域協議会では時期尚早のような気がするし、住民から誤解を受けやすい。市民生活・福祉グループ長も所長もおられるが、こういう話は上がってきているのかお聞きする。

【島岡G長】

今の地域協議会委員の皆さんは改選後の新しい皆さんですが、この問題については前地域協議会委員の皆さんが柿崎区の保育園を鑑みただ中で、自主審議事項として取り上げて審議をしている経緯を聞いている。改選後の地域協議会でも審議を続けていこうという皆さんの総意でこの話がまとまり、検討委員会を立ち上げ審議をし、柿崎区としての考えをまとめていこうということでこの会が続いていると聞いている。

行政とすれば皆さん方の声を聞かずに行政主導で統合への考えは持っていないので、皆さん方がこれから地域懇談会に出席されるに当たって、地域皆さんの声を拾い上げながら進めていくことも大切だと思う。

ただ、柿崎区の保育園における現状も皆さんに話をしながら皆さんの意見を賜

ることも必要と考えている。

【滝澤所長】

今、担当グループ長が話したとおりであるし、また委員の皆さんも一部の方はこれまでの経緯をご存知かと思う。いわゆる老朽化といった問題、そして子どもたちの減少もあって、一度担当課がこの地域協議会に招かれ、実態を話させていただいたと思う。行政としては、この問題は少子化が進んで行く中、施設が老朽化して行く中、今後、少なくとも何らかの方策が必要だということの共通認識を持っている。ただ、それを押し付けるということではなく、皆様方とのいろいろな意見の中で探っていきたいというのがスタンスであり、地域から統合してくれというような話がきて動いているわけでは当然ないが、行政の立場から言うと地域の実態はお伝えしたいという気持ちは持っている。

【金子副会長】

今も話があったが、この問題は前期佐藤会長のときから継続で自主的審議事項として上げ、いろいろと協議をしてきた。中々シビアでそれぞれの地域が抱えている問題なので二の足を踏んできたという経緯がある。ただ、これは次期も継続審議として取り上げて行きましょうと申し合わせた事項でもある。非常に難しい問題だと思うが、懇談会へは2つの考える会で、いろいろと勉強し検討し協議し、これはあくまでも皆さんの意見を聞くためのものだと、きちんと表現し入っていければと思う。

【小出会長】

では、これを叩き台という形で懇談会に資料として出すことでよろしいか。

【白井委員】

家族が柿崎第一保育園の保護者会の会長をやっているが、話を聞くと保護者の皆さんは中々ピンときていない。それで「保育園整備の方策案」となっているが、ここを柔らかな言い方に変える。例えば交通は「考える会」となっているので保育園も「考える会」として出したらどうか。それと、繰り返しになるが保護者の

皆さんがピンときていなく、意見が返ってこない。だから私らだけで考えるのではなく、こんなこともあるが皆さんの率直な意見を聞かせてくださいということで取り組んではどうか。

【小出会長】

先ほどは言葉足らずで申し訳なかった。今回、皆さんから協議していただいた内容を踏まえて懇談会実行委員と編集担当とで話をして、これを書き換えるということではないができるだけマイルドな分かりやすい表現を模索してはどうかと思い申し上げた。

では、これを地域協議会だよりに掲載させていただくことでよろしいか。

【委員】

- ・特に発言なし

【小出会長】

では、2月15日号の臨時号に掲載することで了解を得たとする。

【片桐委員】

今、白井委員から見出しの部分で指摘があった。私も統一したら良いのかと思う。地域の交通を考える会とみんなの保育園を考える会という見出しにした方が、こう決めましたではない形になると思う。

【小出会長】

そういうことも含め、原稿としてまとめていきたいと思う。

【小出会長】

① 地域活動支援事業（防災まちあるき防災マップ作製事業）の変更協議について、事務局より説明をお願いする。

【長井主任】

資料No. 7 上越市防災士会柿崎支部が実施している地域活動支援事業「防災まちあるき防災マップ作製事業」の変更協議についてである。

・地域活動支援事業で変更申請が必要な場合と変更申請を行う場合の地域協議会の関わり方について説明。

資料No. 7の記載にあるとおり、防災士会柿崎支部の場合だが、当初地区ごとに「防災まちあるき防災マップ」を作製し、当該地区のマップを戸数分印刷し配付する予定だった。マップの大きさはA2サイズで、合計で3,700枚になる。しかし、市危機管理課から、市から全戸配付済みのハザードマップと市民が混同しかねないことから、混同しないように全地区のマップを冊子にまとめ、全戸配付してもらいたいとの指導があったが、事業費の都合上、全戸配付することが困難になったものである。事業の目的達成や効果などに影響があると判断し、市が変更承認決定を行う前に地域協議会に協議させていただくものだ。

なお、上越市防災士会柿崎支部に確認した際、今年度は町内会、学校、保育園等に配付し、来年度に再度地域活動支援事業を活用して、柿崎区の全世帯へ配付できるよう検討しているとのことである。

【小出会長】

事務局より説明いただいたが、質問・意見はあるか。

【新部委員】

危機管理課から指導が入ったというのは、危機管理課にどういうふうにこの情報が伝わったのか教えてほしい。

【風巻G長】

柿崎区の防災士会の方から柿崎総合事務所の防災担当に相談があり、防災担当の方で木田庁舎に確認をした。そうしたところ、各町内会に現在ハザードマップという地図が配付されていて、それと類似したような地図を配付した場合に住民が混同してしまう恐れがあることから、混同しないような手法で配付してほしい

という指導と言うか、お願いがあったものである。

【新部委員】

最初に防災士会柿崎支部が出された提案書は、1,700枚とか1,100枚とかで印刷し、全世帯に配付するものだから採択されたと思う。これが冊子になって700部作って、それを町内会、学校、保育園に。当初は学校・保育園は配付先には入っていなかったはずだ。しかもこれを読んで行くと「防災士会会員等」となっていて、この「等」というのは具体的に何を指すのかお聞きしたい。また、危機管理課から出された「一冊にまとめて」は、極端に言えば黒岩地区の皆さんが川西地区のマップをもらって、果たして利用価値があるのか、使えるのか。そんなことを考えると、必要のないものまでつづられてきてしまう。使えない物を町内会に配る、もらった町内会はどういうふうに町内会の皆さんにこのマップを提示するのか、その辺を教えていただければと思う。

【風巻G長】

今、新部委員からご指摘のあった点は、私共の方では確認をしていない。ただ、危機管理課が冊子にさせていただきたいと言ったのは、柿崎区の防災マップを冊子にすることで、上越市防災士会柿崎支部が発行している物だと明確になるということ、そういう形をとってもらいたいと指導したと聞いている。市は、町内会ごとにハザードマップにして、各家庭に配ってある。ただ、地すべり指定のない町内会には配っていない。

【新部委員】

防災士会柿崎支部会長の佐藤さんがおられるのでお聞きしたい。

先ほど言ったように、この会員等という「等」の中に何が含まれるのか。

【佐藤委員】

企業、会社関係だ。

【新部委員】

700枚作って、57町内会と学校、保育園に配る。当初は、なかった学校と保育園にどうして配ることになったのか。この700部の算出根拠をお聞きしたい。

【佐藤委員】

57町内会あるので10部ずつ配布して570部、それに保育園と学校と公共施設等で130部、それで合計700部とした。

【新部委員】

各町内会10部、行法の町内会長さんもおられるが、そこには1世帯に2冊ずつ配られる。そんな無駄なことをするのか。

【佐藤委員】

市との関連もあるので危機管理課と再度検討させていただきたいと思う。

【滝澤所長】

今日の事前協議の場で、さまざまなご意見が出され、まとまらなかったということを受けて、事務局で引き取らせてほしい。それで、事務局として申請団体に改めて、今の結果をお伝えし、再考していただくこととしたい。よろしいか。

【委員】

・特に発言なし

【小出会長】

では、この件に関しては事務局あずかりということをお願いする。

次に、(3)報告事項に入る。

地域活動支援事業（古文書を紐解きながら、現在の用水について学び、明日の用水を考える事業）の変更承認について、事務局から説明をお願いする。

【長井主任】

資料N o . 8 の記載にもあるとおり、全体事業費に変動はないが、支出の部の費目ごとで見ると30%以上の増減を伴う流用となっているため、変更承認申請があったものである。

しかし、変更内容が借上料等の残額を印刷製本費に流用するものであり、事業の目的達成や効果などに影響はないと判断し、市が変更承認決定を行い、地域協議会に事後報告させていただくものである。

以上が資料N o . 8 の説明である。

【小出会長】

次に、会長報告で「上下浜駅の利便性に関する協議の取扱いについて」である。

前回の地域協議会で片桐委員から、昨年度の懇談会で住民から出た上下浜駅の利便性に関する意見に対して、回答を出していただきたいとの意見があった。

そこで、昨年度の地域協議会での協議内容を確認したので報告させていただく懇談会で出た意見を懇談会実行委員会がまとめ、それを基に10月と11月の2回の地域協議会で、住民から出た意見をどう取り上げ、取組んでいくかを協議した。その結果、地域協議会としては高齢者の足を確保するため、バスを含めた交通に関することを検討することとした。

このことから、上下浜駅に関することは、既に地域協議会として協議しないこととしており、今年度の川西地区の懇談会で再度意見が出た場合は、地域協議会としては取組まないことを説明したいと思う。よろしいか。

【委員】

- ・特に発言なし

【小出会長】

次に③の市からの報告「事務事業評価の実施概要について」説明をお願いします。

【滝澤所長】

現在、市では、平成31年度から34年度の4年間を計画期間とする第6次上

越市行政改革推進計画の策定を進めている。昨年の12月から今年の1月にパブリックコメントを経ており、今年度内3月末までの公表に向けて作業を進めている。

本日は、その行革推進計画における取組の内、今年度に行った事務事業評価の概要について説明させていただく。

- ・以降、「資料No.9」により説明

【小出会長】

(4)のその他に入る。

- ・第11回柿崎区地域協議会の開催について

日 時：平成31年2月19日（火）午後6時～

会 場：柿崎コミュニティプラザ 305～307会議室

【小出会長】

- ・閉会を宣言

(午後7時56分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL：025-536-6701（直通）

E-mail：kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。